

みんなの随想

「勉強しないと立派な大人になれないぞ」と叱咤激励している大人たちのほとんどは、小学生の頃「昆虫採集」をしていたに違いない。それは夏休みの自由研究の定番であったと思う。授業ではあまり褒められたこともないのに、この時ばかりは先生に絶賛され、そしてちよつと鼻を高くしたものである。

と、すべて過去形で書かねばならないほど、昆虫採集は遠い昔のものになってしまった。今ではそんな昆虫採集も

渡辺 浩

石川町・ワタコギター
ミュージックスクール代表



時には「悪行」とされることすらある。

でも、山や虫たちが子供たちに教えてくれることはたくさんある。一つの虫の名前を覚えたら次が知りたくなる。見たこともない虫がいたら持ち帰り、図鑑とじっくり照合

素晴らしきかな昆虫採集

そこには必ずルールが存在する。一度奪ってしまった虫の命に対し、責任をもって標本とデータという将来への遺産を残すこと。メスの採集は極力自粛すること。これらは絶対バーチャルでは得られないものばかりである。

「川で遊ぶなんて危ないからダメ!」「木登り? 落ちたらどうすんの!」と子供たちを、大人が引いた線の中に封じ込める。最後には「うちの子は家でゲームばかり」と愚痴りながらも、子供が目の届く範囲にいつもいることに半分安心していたりもする。

を「いやー、参りましたよ、小一の甥っ子が足の取れたカブトムシを持ってきて、接着剤で直してくれって言うんですよ。その後はもつとびっくりしましたね、死んだカブトムシを持ってきて、電池を交換してくれって、こういうのどうなんですかねえ」と振られた。

してみる。これが博物学の始まりであり、「調べる」という子供たちに最も必要な好奇心を満足させる方法、つまり「勉強」の始まりである。

昆虫が生きていく環境というのは不思議なもので、絶対に人間の手の届かない大自然でしか生きてゆけない種類もあれば、里山と称される人間の

裏山に沢山生息するクワガタムシを、わざわざ遠くから仕入れて販売する近所のペットショップに聞くと、結構売れるらしい。たまたま乗ったタクシーの運転手がこんな話が増えることを切に願う。

自然や虫たちに目を輝かせる子供たちが大人になった時、本当の意味での自然保護や自然理解が実現する気がする。そして素晴らしき「昆虫採集」がそのキッカケとなり、虫取り網を片手に野山を駆け回る元気な子供たちと、それを温かい目で見守る大人たちが増えることを切に願う。

また、自分の目で、虫たちが棲んでいる環境を体験することは自然を解する第一歩である。そして、

自分の足で、自分の目で、虫たちが棲んでいる環境を体験することは自然を解する第一歩である。そして、

自分の足で、自分の目で、虫たちが棲んでいる環境を体験することは自然を解する第一歩である。そして、

自分の足で、自分の目で、虫たちが棲んでいる環境を体験することは自然を解する第一歩である。そして、